

日本語教育の 樹形図

〈小枝や葉・花・果実〉

研究・実践領域の「小項目」
個々の個別的研究や
それらの複合的共同研究などの内容

多様性への対応

学習者とそのニーズ及び学び

言語保障

地域ボランティア日本語教室

教授法

多様な目的・習熟度の学生

カリキュラム

アカデミックスキルの育成

看護師・介護福祉士

B. 地域社会における
日常生活的コミュニケーション能力
育成方法

〈細い枝〉

研究・実践領域の「中項目」

実習生

ビジネス日本語

C. キャリア形成のための
高度コミュニケーション能力
育成方法

外国人雇用への理解

日本語教育マネジメント

〈太い枝〉A～F

研究・実践・情報交流の
「包括的大項目」

業界の活性化

E. 日本語教育學術振興に関する
施策の推進・拡充

多様化する社会課題・
長期的政策の必要性

個人の言語・文化の尊重

〈太い幹〉

日本語教育学を媒介した相互理解と
共感を拓く地平に立つ三本の柱
日本語教育学の研究・実践領域を束ねる

情報交流

教育実践

学術研究

ICT・技術系学会

ことばと共生

歴史文化系学会

ことばと言語

NPO・企業・自治体・官公庁・各種団体

ことばと教育

言語系学会

ことばと社会

教育系学会

ことばと心理

ことばと文化

社会科学系学会

哲学思想系学会

〈大地に大きく張った根〉

日本語教育学と各学問領域や
社会を豊かな土壌として
そこから課題や知見を吸収する

※太い枝A～Fの項目名をクリックすると、
それぞれの「細い枝と小枝・葉・花・
果実のリスト」をご覧いただけます。

細い枝と小枝・葉・花・果実のリスト ※表中のⅠ～Ⅴは、ワールドカフェの島に基づいたグループの番号を示す。

太い枝	細い枝	小枝・葉・花・果実
A. 高等教育機関等における学術的コミュニケーション能力育成方法	日本語教育機関に在籍する多様な目的・習熟度の学生に対する日本語教育（Ⅰ）	大学でドロップアウトした学生への対処方法
		日本人学生と留学生との共修授業
		一つのクラスにレベルの違う学生がいる（履修していない学生の方がスタート時の日本語能力が低い）
		工学系の学生を日本に留学させるのに必要な日本語能力とは何
		留学生の多様化（アルバイト第一の学生）
		学生のアルバイト（授業に集中できない）
		教授内容と学生のレベル差
		精神的不安定な学生の増加
		ボランティアと学生
		学生の発音矯正
	日本語教育機関で教育すべき内容（日本語以外も含まれる）（Ⅰ）	留学生に何を教えたらいいいのか
		日本語を通じて教えたいこと（日本語自体ではない）
		何を教える場所なのか
	大学院留学生に対する研究指導（Ⅰ）	オノマトペ研究
		聴解ストラテジー研究
		スムーズな研究指導
		指導方法の研究（他国で）
		研究の仕方を教える体制作り
		大学院の留学生がどのように研究テーマを見つけていったらいいいのか
	どのようなコミュニケーション能力を育成すべきか（Ⅰ）	雑談力
		コミュニケーション能力
	異なる日本語教育機関間、地域、異分野との連携（Ⅰ）	予備教育との連携（アーティキュレーション）
		初年次教育と日本語の授業の連携
		地域との連携
		他分野との連携
	多文化社会における異文化適応力（Ⅰ）	多文化社会では「日本人はふつう」は通じない
		外の社会との関わりが少ない
		社会的位置

		地域社会の受け入れ体制
	多様な職場に即した就労のための日本語指導（Ⅰ）	職業別日本語とビジネス日本語の区別
		現場にあったビジネス日本語
		教材と現場のギャップ(設備)
		介護現場での外国人
	学習者個人に適した学習ストラテジー使用（Ⅰ）	学習ストラテジー
		学習ストラテジーの個人差
	日本語学校と他機関との連携（Ⅰ）	日本語学校は壁か
		進学先と日本語学校との溝が深い
	カリキュラムの見直し（Ⅰ）	カリキュラムの再考
		非漢字圏増加に伴うカリキュラムの見直し
	アカデミックスキルの育成（Ⅰ）	アカデミックジャパニーズをキャリア形成に
		アカデミックライティング
	人材・支援の不足（Ⅰ）	人材不足
		支援の不足
		教師不足（留学生の増加）
	日本語教員の学びの機会（Ⅰ）	先生にとっての学びの場
	日本語教育機関における評価の方法（Ⅰ）	評価方法

太い枝	細い枝	小枝・葉・花・果実
B. 地域社会における日常生活的コミュニケーション能力育成方法	地域ボランティア日本語教室とその役割（Ⅲ）	日本語教室の横のつながり
		日本語教室の改善・評価
		居場所作りとしての地域日本語教室
	留学生とその家族の生活日本語（Ⅲ）	留学生の生活に必要な日本語
		留学生の家族の日本語
	学習者とそのニーズ及び学び（Ⅲ）	学習ニーズの不一致（学習者 vs 学校）
		学習者の主体性（学びとは何か？）
		学習者論
	地域日本語教室における教授法（Ⅲ）	アクティブラーニング
		e-ラーニング
	ボランティア日本語教師及び専門日本語教師（Ⅲ）	ボランティアと専門家との協働
		ボランティア教師は専門職か？
	コミュニケーション・ストラテジー及び能力の育成（Ⅲ）	コミュニケーションの方略的能力を伸ばすとは
		現場でのコミュニケーション
	多様性への対応（Ⅲ）	国内の多様性（言語、国籍、価値観）
		社会の価値観の変化に対応できない
	短期留学生のための集中日本語コース（Ⅳ）	短期留学生のための短期集中コース
		学部留学生の日本語会話補習
		短期交換留学生の日本語教育
	地域に住む外国人と日本人との伝え合いの必要性（Ⅳ）	地域の日本語教育は地域に住む日本人の理解こそもっとも難しい
		地域に住む外国人と日本人が生活に必要なことを伝え合う
		日本語の必要性
		哲学的議論の必要性
	EPA 看護師・介護福祉士の家族への援助（Ⅳ）	EPA（介護）
		EPA の家族
	異文化間コミュニケーション能力を測る基準（Ⅲ）	異文化言語能力を測る基準
	言語保障（Ⅲ）	言語保障
	多人数教室での創造的活動（Ⅲ）	多人数教室での創造的活動
	海外に在留する児童生徒への教科書の無償給与（Ⅳ）	日本人学校の教科書無料

太い枝	細い枝	小枝・葉・花・果実
C. キャリア形成のための高度コミュニケーション能力育成方法	外国人への教育及び外国人雇用への理解（Ⅱ）	在日外国人への教育（異文化）（偏見）
		日本人の学習
		日本人の外国人雇用についての理解
	職場での異文化理解（Ⅱ）	文化の問題か個の問題か
		職場内での異文化コミュニケーション
	ビジネス日本語とその応用（Ⅱ）	少数派ビジネス日本語
		仕事上の日本語との関連
		ビジネスプランとその確認
		ビジネス日本語と JOP（職業目的の日本語）との関連
	諸分野における研究と実践（Ⅱ）	研究と実践のインターフェイス
		聴解ストラテジー研究
		スムーズな研究指導
	会話を中心としたコミュニケーション能力（Ⅱ）	会話能力
		コミュニケーション能力
	発音指導及び学習（Ⅱ）	初級レベルでもっと発音を
		発音
	日本語教育マネジメントの実施と共有（Ⅱ）	プログラムマネジメント
		教務の仕事の共有
		日本語教育マネジメントの共有
	実習生の受け入れと対応（Ⅱ）	実習生の世話係
		上司の期待と実習生の生き方
	ブリッジ人材（Ⅱ）	ブリッジ人材
	上達を必要としない学習者（Ⅱ）	上達を必ずしも求めない学習者
	日本で仕事をするものの意味（Ⅱ）	日本で仕事をするものの意味を伝える

太い枝	細い枝	小枝・葉・花・果実
D. 日本語教育学の社会的認知や地位の向上	日本語教員養成課程における受講生の多様化と日本語教育学を学ぶ意義（Ⅰ）	養成課程を修了しても日本語教師にならない理由
		日本語教師の専門性（検定合格すれば OK か） （養成講座終われば OK か）
		日本語教師養成課程での留学生の増加
	日本語教員の役割の変化と教員養成・研修（Ⅰ）	教師の役割
		教師の役割のボーダーレス化
		日本語教師にならない学生相手の教師養成
		教師養成
		地方での教師養成研修
		教師養成における留学生参加の意義
		学生が少ない（教師が余っている）
	日本語教育実習のあり方や方法（Ⅰ）	実践的な教育実習の可能性（留学生の参加の有無）
		教育実習の必修化
		教育実習の方法
	日本語教師の職業としての安定性・魅力（Ⅰ）	職業としての安定性（給与水準）
		職業としての魅力
	日本語教育の位置づけ・認知度（Ⅰ）	大学教育の中での日本語教育の位置づけ（教師研修の位置づけ）
		日本語教育を知ってもらうこと（教師になること）
		国内の日本語教育がボランティア頼みでいいのか
		海外での日本語教育の認知度・知名度の低さ
		日本語教育マネジメントの共有
		教務の仕事の共有
	日本語教師養成とその課題（Ⅲ）	教師養成
		日本語教師養成の課題（キャリア形成の問題）（離職率）

太い枝	細い枝	葉・花・果実
E. 日本語教育 学術振興に 関する施 策の推進・ 拡充	多様化する社会課題に対する長期的政策の必要性 (IV)	社会認知と政策
		母語と継承語の政策上の区別
		多様化が社会を豊かにするのか
		政策は社会寄り
		長期的政策がない
	個人の言語・文化を尊重した日本語教育 (IV)	親と子供のためのバイリンガル教育
		個人を尊重しつつの教育・研究
		個人と母文化とのつながりの保持？
		個人を守る対応が可能な状況をつくる
		言語資産か個人の権利か
	業界の活性化とは (IV)	業界の活性化とは
	日本語教師としての専門性 (IV)	日本語教師としての専門性

太い枝	細い枝	小枝・葉・花・果実
F. 日本語教育学の言語教育的・思想的・哲学的枠組みの構築	学習者間、学習者と教員間、教員間の協働学習と協働（Ⅰ）	協働
		専門教育との協働
		異分野との協働
		協働学習
		協働学習になじめない
	異文化理解・相互理解（Ⅰ）	異文化理解
		相互理解
		異文化間コミュニケーション
	教室内の支援・活動の方法（Ⅰ）	授業への能動的関わりの触発方法
		大人数クラスでの創造的活動
		授業外での活動
		週1コマの授業の役割は
	教育手法（アクティブラーニング・Eラーニング）（Ⅰ）	eラーニング
		アクティブラーニング
	モチベーションアップ・維持（Ⅰ）	モチベーションアップの方法
		学習者のモチベーションの維持
	多様な学習者・学習目的（Ⅰ）	学習目的の異なる学生の混在
		様々な職のための日本語学習
		日本語学習に力が入らない（日本を使わなくても生きていける）
	学習者に対するサポート（Ⅰ）	長期滞在者のサポート
		サポートの難しさ
	自律学習（Ⅰ）	JFL環境における自律学習支援（ベトナム）
		自律学習
	教室手法、教育環境の意義（Ⅰ）	教科書を読ませることにどのような意義があるのか
		日本人・留学生混合クラスの意義
	異文化理解と共生（Ⅱ）	異文化理解
		相互理解
	異分野との協働（Ⅱ）	協働
		異分野との協働
	日本語教育によって、世界の平和と人々の幸福に貢献する（Ⅳ）	日本語教育学とは
		日本語教育が世界平和にどう貢献できるか
		来た人の幸福につながる日本語教育とは
		日本語教育は不採算部門か
		日本語教育の将来
		日本語教育の境界設定が困難

その他の小枝・葉・花・果実

ワールドカフェの島に基づいたグループ	小枝・葉・花・果実
I：大学・大学院・日本語学校・専門学校など	インターンシップのあり方(通訳としての役割)
	教務事務のインターンシップとしての受け入れ
	フィラー
	言語環境による・・・(卒論)
	各国の言語政策
	日本語教師のワークライフバランス (自宅で授業準備・家事・育児の両立)
	新人研修の改善
	地域ボランティア教室支援者のビリーフ
	初級・中級学習者へのリテラシー教育 (異文化リテラシー)
	中級の壁
	寝ている学生にはどうしたらいいのか
	最終目標をどこにおくのか
	プログラムマネジメント
	年少者教育
	専門別コンテンツ
	4技能は幻想
	待遇の問題
	低学力化
	会話教育
	母国での基礎教育の差の克服
	ブラッシュアップの必要性
	語学学校の質
	教室での母語使用
	ディスレクシア
II：技能実習・キャリア教育・ビジネス日本語・ 専門日本語教育など	現場
	数値化
	海外語学講師のレベルアップ
	速度
	評価
	モノサシ
	スピードアップを考えたシラバス
	アカデミックライティング
	外国人のインターンシップ参加の可能性
	4技能は幻想

	教師養成の視野の狭さ
	就職活動支援（エントリーシート、自己分析）
Ⅲ：地域日本語教室・ボランティア・ 母子サポート・定住者・難民など	コミュニケーション能力
	日本人との共生
	教室と教室外学習のつながり
	小学校短期間での移動
	自治体・国による体制整備
	教材と設備のギャップ
	サマープログラムの中の日本語教育プログラム
	ボランティアの知識レベルとは
	日本についての興味の有無
	語学で何を教えるのか
	自律的学習支援
Ⅳ：年少者教育・継承語教育・日本語教育政策・ 日本語教育参照基準制定など	4週間の短期日本語プログラム(授業・カリキュラム)
	友達・仕事・家がある外国人は日本語を学びたがっているか分からない
	N1 対策
	日本語補助動詞の研究
	アカデミックディスコースへの参入の手助け
	スタンダードにはまらないがどういう立ち位置
	過去を含むパースペクティブで未来を
	誰にとっての利益か
	オーストラリア学校経営
	外国にルーツを持つ人の増加
	人はなぜ働くのか
	二項対立を超える
	コミュニケーション能力の育成
	南米日系社会
Ⅴ：海外における外国語としての日本語教育・日本 研究など	コミュニケーション能力の育成
	日本語を話すチャンス
	会話能力不足
	授業内容がコミュニケーション力につながらない
	文法知識重視とコミュニケーション力重視の齟齬（中国政府の方針と現場の課題）
	動機付け(日本で就職?)(学生のキャリア?)(目標?)